

論述ブースト No.6

社会医学を論じる ― 公衆衛生・予防医学の視点を答案に組み込む

導入文

医学部の小論文・面接で「医師として地域や社会に何ができるか」を問われたとき、「患者を一人ひとり丁寧に診る」という個人レベルの答えに終わる生徒は多い。大学の公衆衛生・予防医学の視点を持つことで、「集団・社会・制度」の次元で医師の役割を論じられるようになる。

講義概要

公衆衛生・予防医学の基本概念（一次・二次・三次予防、スクリーニング、社会的決定要因）を高校生向けに翻訳し、医学部小論文・面接で「社会医学の視点を持つ医師像」を論じる力を育てる。地域医療・高齢化・医療格差などの典型テーマへの適用まで体系化する。

授業目標：医師像の論述を個人診療レベルから、公衆衛生・社会医学の視点を含む答案へ引き上げる。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部・医療系の総合型選抜・推薦入試で、小論文・面接の社会的視点を高めたい生徒。

授業時間：授業90分＋演習・質疑応答30分

到達目標：一次・二次・三次予防の違いを説明できる／社会的決定要因の視点を答案に組み込める／地域医療・医療格差を論点として扱える

授業構成（90分）＋演習・質疑応答（30分）

授業90分：1 導入：「個人診療の答え」と「社会医学の答え」を比較 2 概念導入：一次・二次・三次予防の定義と具体例 3 スクリーニング：集団に介入する論理を整理 4 社会的決定要因：貧困・教育・環境が健康に与える影響 5 典型テーマ：地域医療・高齢化・医療格差を論点化 6 演習：小論文骨子を社会医学の視点で作成 7 まとめ：「個人→集団→社会制度」の3層で考える習慣

追加30分：「地域医療に医師としてどう貢献するか」を社会医学の視点で200字論述する演習と質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：三次予防の定義と具体例／スクリーニングの論理／社会的決定要因の概念／典型テーマへの適用

課題：「日本の高齢化社会における医師の役割」を、個人・集団・社会制度の3層それぞれから論じて300字でまとめる。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。